

CONTENTS ◆新春のつどい 素人寄席 ◆おくさわ今と昔 ◆新春のつどい お米の話 ◆グリーンサムのお庭拝見
◆「土とみどりを守る会」のアンケートがまとまりました ◆会からのお知らせ

新春のつどい 素人寄席



恒例の新春のつどいは、東地区会館の2階和室で2月4日の立春の日に開かれました。第1部はお米の話、第2部は池尻で活動する<大山みちの会>の方々をお招きして演芸を披露して頂きました。

素人寄席とは言うものの、舞台には立派な赤い演台とその上に大きな座布団を敷いた本格的な寄席の雰囲気。最初にご登場願った羅典亭端午さんは、年齢も風体も寄席の真打ちを思わせる貫禄。「厄払い」の演目で新春にふさわしい縁起の良い落語を渋みをきかせながらもユーモアたっぷりに聴かせて下さいました。

続いてはマジックのサクマタカシさん。杖をハンカチに変え、レコードの色をハンカチの色に合わせて変え、三本の結んだ紐の輪を瞬時につなげたり解いたり、カードの目の数を裏返すたびに变化させ、一万円札の福沢諭吉の顔が消えたと思えば別のお札に集められたり。最後はカラの紙袋の中から次々と大きなガラスケースを三つも取り出したのには見物人もびっくり。こうした玄人はだしのマジックに拍手喝采でした。

三人目は落語の砧家羽丸さん。大きな目とどっしりした体で相撲取りの話を一席。阿武松(おうのまつ)

という大飯喰らいが絶望して身投げ自殺を考える。しかし、素質を見抜いてくれた別の親方のお陰で横綱にまで出世する。今時の教育の在り方をも考えさせる好い話でした。

いづれも素人とはとても思えない熱演で参加者を堪能させて頂きました。(今井)

—第1部 お米の話—は3面に掲載



おくさわ今と昔

とんぼ釣り

奥沢5丁目 山崎 忠

我が家の前の通りを北へ自由が丘の方に行くと、呑川(九品仏川)にかかる権現橋にぶつかった。今はその場所は橋も無く暗渠になり、桜並木の遊歩道になっている。大井町線の線路をまたぐと其処は一面の畑で、夏になるとトンボ釣りの場所になった。半袖シャツに帽子をかぶり、近所の友達と胸を躍らせながら坂を下ったものである。

ギンヤンマ(オス)に朝顔の葉っぱを巻きつけてチャンに見せかけ、木綿糸を長くつけてギンの鼻先でブンブン廻すとガシャガシャと羽のこすれる音がするのだが、ギンは飛び去ってしまう。ギンを捕まえるのはむづかしい。

ギンヤンマは時々じっとして辺りを窺うような格好をする。その時は威圧感があって普通のとんぼとは思えない。しかしその後はぐるぐると旋回して普通のとんぼに戻ってしまう。ギンよ来いよ、チャンがいるぞー。採った魚に餌はやらない、そう、採ったとんぼは母の言いつけで皆放してやったのだ。でもチャンは勿体なくて一週間ぐらいはとって置いた。

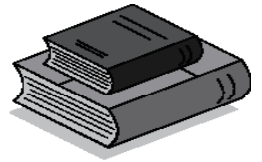
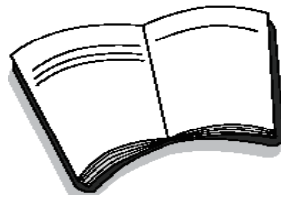
権現橋の右側の畑から“ノーツ・ノーツ”の音が聞こえてくる。これはギンが興奮した声だ。ギンヤンマのオスは自らの尻尾の先をメスヤンマの頭の後に差し込んで離れないようにする。これでおつながりが出来る。ギンを捕まれば必ずとチャンも捕まえられる道理である。チャンは葱畑で卵を産みつけることがある。チャンス到来!! ギンとチャンと一緒に産卵する所を捕まえることができる。私は権現橋のたもとでギン・チャンを捕ったことがあるが、当時とても相場は高いと聞いた。同じとんぼでもトーセミ・オニヤンマ・オハグロ等は駄目だそうだ。

何はさて置き「とんぼ釣り 今日はどこまで行ったやら」(加賀の千代女)の日々であった。もう70年以上前のことであるが今も鮮明な楽しい思い出である。

●奥沢・自由が丘あたりの古い風景が写っている写真をお持ちの方はご連絡下さるようお願いいたします。

●このシリーズへの御投稿をお待ちしております。お話を聞かせ下さる方にはうかがいに参ります。

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。



晴読雨読

奥沢2丁目33 『読書空間みかも』

町田恵美子

自由が丘駅南口から九品仏川緑道を通って緑が丘駅まで散歩したり、緑が丘コミュニティーセンターへ行ったりしたことはあったのですが、ほぼ一年前に奥沢二丁目に私設図書室『読書空間みかも』を開くまでは、にぎやかな自由が丘のすぐ近くに、こんなにも静かなみどり豊かな住宅地があることは知りませんでした。

自由が丘駅南口から緑道を歩き、大井町線のふみきりと交差する道を、こんどはまっすぐ奥沢駅方向に上がってきますと、左側に『読書空間みかも』があります。

奥沢グリーンマップを見ますと緑が丘図書館と奥沢図書館がほぼ一直線上にならんでおり、そのまん中位の位置に『読書空間みかも』があります。

80年位前に建てられた木造の住宅の一部をお借りしております。この家は、土とみどりを守る会の〈街なみ選奨〉に選ばれています。カイツカイブキの生け垣で囲まれた庭には、たくさんの梅の木・びわの木・かきの木などがあり、今の時期はどの木も枝を伸ばし新しい葉をつけています。

晴れた日は、南側・東側・西側の窓を全部開け放ちますと、室内にいても風が通り抜けるのを感じることができます。

洋間の出窓は上・下に開閉するしくみになっており、窓の両側に小さな滑車がついていてキュルキュル・・・と窓を引きあげます。

雨の日には木々の葉に落ちる雨のしずくの音を聞きながら本を読むことができます。

出窓に置いてある黒電話のダイヤルを回すのを見ていた若い人が、「もどるのに、時間がかかるのですねエ。」と言われました。

ゆったりした時間を過ごしに、ぜひお立ち寄りください。

第一部は奥沢生まれのお米屋さん・福田詔三さんのお話でした。福田さんは農薬を使わない有機米にこだわり、現地で安全や品質を確認してからでないとい入れないという本格派。奥沢小学校の教育にお米作りの実習も取り入れるなど活動は幅広く、奥沢商店会のまとめ役としてもご活躍中。



話の要点は ①農薬を使わない環境保全型農業 ②地域の美化運動 ③奥沢駅前の音楽祭 の三点だった。

<お米の話>

農薬は身体に悪いだけでなく土地を汚染し、環境破壊をもたらす。最近はこの事を考える農家も増えてきた。安心して食べられる米作りで土の汚染を防ぐ事は、農業の発展にとってはもちろん大切だが、さらには健やかな農業で健やかな人造りをすれば、国も健やかに発展する、と国造りにも通じるその重要性を力説。

茨城県の涸沼では農薬を使わない努力を重ね、有機肥料に切り替えたところ、川の水がきれいになりその結果、川が流れ込む一帯は海の水もきれいになり、今では、しじみ、鰻、アサリなども取れるようになった。無農薬農業で海が生き返り、農地の土壌も肥えて農作物がよくできるばかりか、あたりの川には虫も飛ぶようになり、自然豊かな環境も取り戻している。

新潟県の「魚沼コシヒカリ」は有名だが、お米には一反で10俵も11俵も採れる品種が有るけれどもコシヒカリは7~8俵ほどしか採れない。特に「魚沼コシヒカリ」の本物は流通するお米の0.3%しか無い。「秋田こまち」や「ひとめぼれ」はこの「こしひかり」を使って作られた品種。

新潟県の十日町では農薬を減らす米作りをめざして農協で直接管理しているし、同じく新潟のカントリーでは生産から出荷まで保存管理している。他県からお米を持ち込んで、それを新潟のコシヒカリとして高値で出荷する「にせコシヒカリ」と区別するために、最近では「コシヒカリBL」と表示を新しくした物を使っている。この品種は稲のイモチ病にも強い品種である。

私たちが無農薬の有機米を見分けるには、図のようなJAS(日本農業規格)の有機米マークがあるか無いかを確認する事が大切でこれがあれば安心して食べられる。



<質問から>

まず、無農薬米の認定やJASマークの信頼性についてだが、このマークは産地、品種、無農薬、生産年度などを消費者課で管理している。それをお米屋さんが小分け認定業者として小分けして販売するのだが、かなりの厳格さを要求される。表示をごまかす不正で営業停止になった業者も少なくない。

おいしいお米の見分け方については、ご飯を炊いた後に時間が経っても味が悪くならないものがよいお米で、無洗米などは真っ白で見た目は良いが、お米本来のうま味、風味をすっかりはぎ取っている。真っ白いお米より少し飴色の米がおいしい。

また、お米の賞味期限については、粳のままなら保存は何年でもだいじょうぶだが、5年までほとんど変わらない。精米したもので一ヶ月位なら全く問題はない。要は甘みと風味が失われていないかどうかです。

ぬか味噌に使うあらヌカになどが必要ならいつでも相談にのって下さるとのこと。

<街の美化運動>

毎月、第一日曜日の午前中は清掃の日として地域の美化運動に取り組んでいる。5年ほど前から歩道に使うレンガを再利用して、インター・ロッキングを作ってきた。また、ガードレールに絡まるカロライナ・ジャスミンの剪定、街路樹の除草刈り、駅前の掃除など、ボランティア活動として取り組んでいる。街路灯も斬新なデザインの物を50灯設置し、しゃれた雰囲気造りにも成功した。

<奥沢・音楽フェスティバル>

駅前の音楽会で今年は五回目。5月の26、27日に開催する予定。昨年は30組-260人が舞台上上がる大盛況。二回目から雅楽の演奏者として有名な東儀さんの協力参加も得ている。噴水広場では子どもさんの出し物も。

<その他の取り組み>

チャリティー・バザーにも取り組む。世田谷の農協と協力して、地場野菜の新鮮な物を「朝取り」として安く皆さんに買っていただいた。茨城トマトも取り寄せ、売上げの一部は玉川地域社会福祉協議会に寄付している。

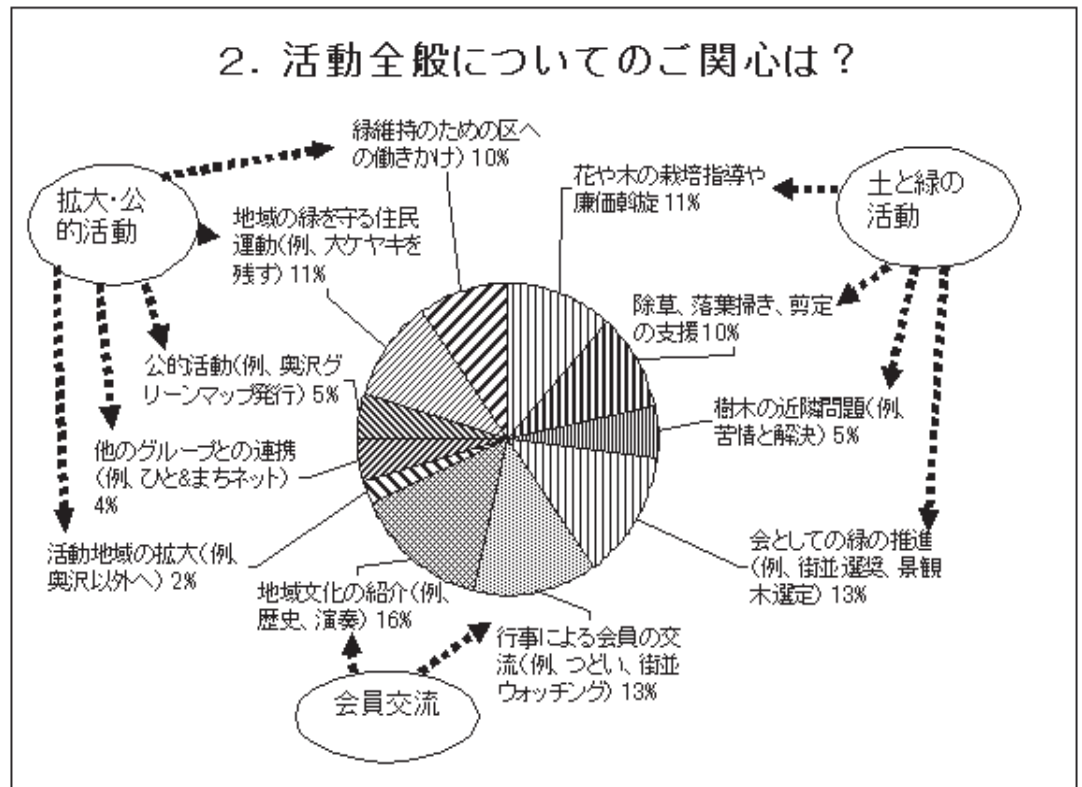
(今井)

グリーンサムのお庭拝見 Vol.15

今回は東玉川1丁目26番地の川部家を訪問しました。道路側のプランターの中でしっかりと根を下ろしているユリオプスデージーとフランネルソウ・マトレカリア・ベロペロネ・パンヤソウと白いオキザリス等。それらを見ながら階段を上ると15個のプランターに入った75株のピンクの桜草の甘い香りに包まれる。花は下から咲く。種が出来たら上の花を取り良い種を作る。その種を蒔き芽が出たら間引きをする。夏は新芽を食べに土の中から出てくる夜盗虫を午後10時頃から退治する。こうして大事に育てられた桜草は階段デビューする。門を入ると迎春花と白い桜草と、1本の綱のように刈り込まれているアイビー。3個のプランターの中では新芽の

虎の尾90株が元気に育っている。豊後梅に山茶花・南天・金木犀・金柑・紫陽花・紅葉・白と赤と斑の花の椿などは短く切り揃えられている。びっくりする程大きい親子の金のなる木2鉢はピンクの小さい花を咲かせている。根腐れ防止は夏の1ヶ月くらい水をやらないこと。区のお知らせを見て作文を送り、もらったコンポストで野菜くずと糠を混ぜて肥料を作る。年中、芽の具合や花の具合を考えながら次々と苗を継続させていく。そして道行く人達が庭を眺められるようにとフェンスにしてある。「きれいだね」という男性の声が聞こえてくると“見てくれて嬉しい”と思う。「そういえば老婦人が毎日見に来るのよ」と川部さんは言う。私もその仲間のひとりになりそうと思いつつ帰りました。(遠藤)

会の活動の今後のあり方を検討するためには、会員の皆様が何を希望しておられるかを先ず知ることが必要と考え、アンケートを実施しました。140名にお送りし52名の方から回答を頂き有難うございました。分析結果の一部がこの図です。土と緑の活動から、会員間の交流、拡大や公的活動にわたり皆様が広く関心を持っておられることが判り、また貴重なご意見を沢山頂きました。機会を捉えて皆様にご紹介する予定です(5月19日つどい、7月ニューズレター掲載)



会からのお知らせ

●土とみどりを守る会が誕生してから今年で10年目になります。この間多くの皆様のご協力をいただき、会員制に移行してもゆるぎなく活動を続けることができています。私有地の緑が減り続ける事態の中で会の活動はますます重要になると思います。年間1口1000円の会費による御協力をどうぞお願い申し上げます。

●5月のつどいは昨年と同様に宅地をお借りしてミニ園遊会を催します。展示・売店・花苗などのコーナーを設けます。お茶のサービスもありますから、ごゆっくりお寛ぎ下さい。つどい開催の前に11時から土とみどりを守る会の総会を開きます。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126
 世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558